



発行：
山古志木籠ふるさと会
会長：松井 治二
発行年月日：
平成23年 6月18日

木籠ふるさと便り

「あいがとう みなさん」 ～おかげさまで1周年、木籠でお待ちしています～



↑ 今年も感謝の気持ちを込めて「ありがとうみなさん」を立てた

5月1日、道普請、そして今年のふるさと会総会が開催されました。ふるさと会が発足して1年、現在会員数は100名を超え、私達の故郷への思いと感謝の気持ちはどんどん広がっています。

朝の道普請では、雪解け後の郷見庵周辺を整え、花を植え、木籠周辺道のごみ拾い、倒木の片付けをし、今年も皆様をお迎えする準備を整えました。

総会には、長岡の避難所から南相馬市の被災者の方々をお迎えして、ふるさと会の姿を見ていただきました。同時に、これから私達は南相馬と共に復興への道を歩むことを約束し、長島(元)村長や関係員も駆けつけ、顔を合わせて肩を寄せ合って一緒に語り合うことができました。「人と人の繋がりが何よりの力になる」と私達はずっと感じてきたし、これからもそう信じています。



松井会長(左)と南相馬市の皆さん(右)(南相馬市の皆さんの中央 長島(元)村長)

お日様ぽかぽか ～田んぼの泥の温かさ、水の冷たい気持ちよさ～



5月21日、田植え日和。南相馬の皆さんを迎えて、ふるさと会恒例の田植えをしました。大勢で田んぼに入り、相馬の皆さんもニコニコ(写真左)。避難所で元気を無くしたおばあちゃんも、介護が無いと外出できないおじいちゃんも「田植えには行きたい」と、この田んぼまで来てくれました。おばあちゃんは若い女性記者の方とたくさん話をしてくれた。おじいちゃんは椅子に座って気持ちよさそうに私達の田植えを眺めていてくれた。私達の心にもすがすがしい春の風が吹きぬけた。



話す事は元気のもと



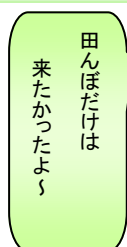
がんばれ！チビッコ！



プロのすご技



夫婦仲良く



おいしかった、楽しかった ～食べることは元気のもと！～



田植え後の後のお楽しみ(-_-)/、お日様の下で皆でお昼を食べました。今日は朝早くからからお母さん達が腕をふるってください、大奮発！とっても豪華！！

ぜんまいの煮つけ、牛肉のお汁、山菜の天ぷら、おはぎ、おこわおにぎり・・・もう食べきれませんっ、と思ったけれど食べちゃいました。田植えでたくさん働いて、みんなで一緒にご飯をいただく。これは何より元気がでます。南相馬の皆さんもた～くさん食べて楽しそう。お昼を作ってくれたお母さん達、ご馳走さまでした。



私達は復活します。 いつか福島に来てください。

南相馬のリーダー矢戸さん。(写真右)長岡の北部体育館に、たまたま避難してきて、お互い初めて会った人達同士のグループリーダーをやりぬいた。

全く知らなかった者同士が、同じ釜の飯を食べ、仕切りもない体育館で寝起きを共にする。矢戸さんが皆とした3つの約束「悪口言わない、ちくらない、挨拶声かけをしよう」。“元気か？”“だいじょぶか？”“いきてっか？”仕切りのない体育館は皆の顔が見えて幸いだったとも言える。しかしその苦労は並大抵のことではなかっただろう。

福島に帰った今は、避難所で一緒に過ごした仲間を“戦友”と呼んだ。この目で見たわけではないが、25日に帰って以来、信じられない光景に、歯を食いしばって立ち向かっている様子がひしひしと伝わる。家の片付けは、あれからひと月たとうとする今、やっと目処がついたようだ。

「私達は復活します。いつか福島に来てください」あの日の言葉を信じ、私達は今も南相馬を想っています。そしていつまでも待っています。どうか山古志木籠と一緒にいることを忘れないでください。 【↓田植え後の昼食にて:南相馬の皆さん】



「山古志の人たちは私の宝です。本当にあったかかった。自分が震災にあうまで、報道でしか知らなかったこの山古志の人たちと、こうしてお付き合いできるなんて、私は何て幸せ者なんだろう」苦しいはずの矢戸さんからあふれる感謝の言葉。矢戸さんから届いた手紙をご紹介します。

本当の涙でした。
 負けないでと勇気を出せる涙でした。
 残雪の残る山を見て泣き、
 はるか故郷を思う心に涙する毎日の生活でした。
 山古志の皆様の涙は愛の涙でした。
 力を与えてくれました。
 くじけないで、負けないで、私達がついていると
 尊い涙なのです。
 流していただいた皆様の愛すべき地は
 第2の故郷です。
 流してくれた大きな美しい涙は心に残る
 山古志から得た宝です。
 ありがとうございました。

矢戸 晃

がんばろうて、南相馬！ 負けてたまっか、南相馬！

がんばろうて！山古志 がんばろうて！南相馬

作詞 山古志のおばあちゃん
作曲 児玉 民彦

1

まだまだ遠い道のりだけど 前向きに背伸びせずいこう
息切れしそうになったら 昔を思い出せば力でしょう
いくら歳月たとうとも やがて泥の上にも
花咲く春が来ること 信じて生きていこう
人生振り返ることも大事だが 今は勇気と誇り胸に抱いて
がんばろうて南相馬 願い届くように
負けてたまっか南相馬 絆抱きしめて

2

しっかり大地にふんばって 花を咲かせていこう
小さな種から大きな幹まで 手を取り合って
この歳で何ができるのか でも確かに小さな積み重ねが
いつしか大きな力になり 誇りを育ててきた
このまま過ぎし日の 夢にしていいいのか
立ち止まってどうする 心に誓って
がんばろうて山古志 もう一度喜びを
がんばろうて山古志 形にする日まで

3

どんなに故郷変わろうとも 永遠のちぎりを忘れはしない
先祖たちの宝物を 守り伝えていきたい
今の耐えていく力があれば なんでもできると信じよう
よした～よしたよした山古志 熱きこの血潮を
がんばろうて南相馬 山河に満たして
負けてたまっか南相馬 生きるその証を
がんばろうて南相馬 永遠に讃えて

お腹もみたされたら、ふるさと会
芸能部の出番ですよ～。

児玉さんはいつもの「頑張ろうて、
山古志」を南相馬バージョンに。
“負けてたまっか！”想いを込めて
歌いました。

五穀豊穡の舞、中村さんの振う杵
も、今日はいつもより力強く宙を舞
います。

感極まって、
ちよっと緊張……



とん
とんとん

それっ
ほい、ほいっ

「五穀豊穡の舞」は、田んぼ仕事の各段階(田んぼ打ち、すじまき、田植え、稲刈りから餅つきまで)を太鼓のリズムに合わせて踊ります。今日植えた苗が実る頃、秋の稲刈り・餅つきには、南相馬の皆さんまた来てくださいね。待っています。

山古志への田植えの旅

静岡 寺田 英夫

今日は南相馬の人達が田植えを手伝いに来てくれると聞いていた。そこで市長に聞いてみると、西原牧之原市長は南相馬の桜井市長と関係もあり、震災後電話で直接助けが欲しいと連絡を受け、早速灯油と軽油を持って支援に行ったそうだ。そんなこともあって今回の田植えには一段と力が入った。

田植えが始まると同時に、南相馬の人は報道陣から一斉にインタビュー。少し落ち着いたところで、皆は長靴であるのに宍戸さんがズボンを捲って素足で、雪解け水で冷たい田んぼに入った。居ても立っても居られなかったんでしよう。これには驚きと東北魂を感じた。

初めは見えていたのに「きつと心が和み、落ち着き、田植えをして災害のことを紛らわそうとしたに違いない」素足を入れた瞬間に「ほんのひと時でもいい大災害のことを忘れ、山古志の力強さを感じ頑張ってほしい」と願うばかりであった。

家を流されてしまったおばあちゃん、ここに来てやっと元気が出たと言っていた。この言葉は私にとっても「嬉しかった」の一語だ。どんな言葉を掛けたらいいのか本当に困っていたときである。何も言わなくていい、ただここに来て頂き、田植えをみてもらうだけでいいんだ。それが癒しというか慰めの言葉、行動であったと思う。そうだこれが助け合うということなんだ。

また、田植えの最中は何もかも忘れ夢中になっている様子は、主食である米作りの大切さと心と心を繋ぐ絆の第一歩であった。

宍戸さん、南相馬の皆さん、雨にも負けず、風にも負けず、放射能にも負けず元気で力強く頑張っほしいと静岡・牧之原の空遠くから祈るばかりである。

山古志木籠 初夏の山歩きツアー

7月2日(土)ふるさと会では一般参加も募り、「初夏の山歩きツアー」を計画しています。9:00 郷見庵前集合です。

木籠を出発して^{おおどうとうげ}大道峠を登っていくコースです。かつてここは木籠住民の畑や田んぼがあったところ。生活の基盤でした。震災で木籠の山々は姿を変え、その地形さえも変わってしまいました。しかしあれから7年近くたった今山はたくましく緑を取り戻し、動植物も戻りつつあります。

そんな山々を眺め、当時の木籠住民の田畑、生活基盤をたどりながら、様々なことを思い皆さんと語り合うことができればと思っています。山頂近くの見晴らしの良いところでお昼です。木籠の山のプロが案内していただきます。お弁当、飲み物を持参のうえ、山登りに適した服装でおいでください。



また、山歩きから帰った後は、都合のつく方々で七夕飾りなどを作って、七夕の準備をしようと思います。また、頃合いをみて、夜 8:00 頃からホテル観察にも出かける予定です。

盛りだくさんですが、すべてぼちぼち木籠時間でおこないましょう。初夏の木籠を1日満喫しにきてください。

今年度の ふるさと会活動 について

ふるさと会の活動に、長岡市の補助金が頂けることになりました。それにあたり、今年は以下のような活動目的を掲げました。

- ① ふるさと会員の絆をこえて活動の輪を広げ、新しい持続可能な集落の形を目指す。
(お年寄りや、障がいを持つ方々、学校に行けない子供たちなどに参加してもらい、楽しみ、喜び、前に進むきっかけをみつけてほしい)
- ② 震災の経験を伝承し、東日本大震災で被災された方々と一緒になって、復興の応援団になる。

今後の予定

- ・初夏の山歩きツアー(7月2日)
- ・七夕(7月上旬)
- ・盆踊り(8月中旬)
- ・山古志を知るツアー
- ・梶木小学校校歌を歌う会(小松田茂さん)

8月頃 HP を開設し活動予定等を掲載する予定です。開設されましたら本紙でお知らせします。

山古志木籠ふるさと会 募集



[木籠の御神木 夫婦けやき]

山古志・木籠地域の伝統、文化、暮らしを継承し、地域の振興と発展に寄与することを目的とします。

集落活動や農作業・山仕事を通して共に働くことの素晴らしさを実感し、豊かな自然の恵みを楽しむ元気な村づくり、「千年続く日本の故郷」づくりをめざします！

遠くにいても、近くにいても、山里の暮らしを感じ、木籠の応援団になって一緒に楽しみませんか



「日本の故郷 地震で沈んだ村 皆の力でここによみがえる 山古志木籠」

- 特典：** (1) 「会員証」の交付
(2) 「山古志木籠ふるさと便り」毎号郵送
(3) こどもカレンダーをお送りします。

年会費：(個人) 年額 2,000 円、(団体) 年額 10,000 円 (何名様でもOK！)

お申し込み方法： 下記連絡先のどちらかに入会する旨をお知らせください

■山古志 木籠集落 区長 松井治二

(FAX/電話) 0258-59-2180

■山古志木籠ふるさと会 事務局 担当：石井秀次

(Eメール) cid85830@syd.odn.ne.jp

入金方法： 郵便振替又は、現金申し込みになります。

郵便振替方法： 現金又は、郵便貯金口座から下記口座へのお振替となります。

(現金の場合) 郵便局窓口で「電信払込み請求書・電信振替請求書」にご記入お願いします。

※その際「お受取先口座番号」の『CD/再発行』欄は無記入で結構です。

(ゆうちょ銀行の口座をお持ちの場合) 郵便局の ATM からお取り扱いできます。

振替口座： ゆうちょ銀行 記号：11220 番号：25565141

口座名義人 山古志木籠ふるさと会 (ヤマコシコゴモフルサトカイ)

会員の方で、今年度の会費がまだ未納の方は、お早めにお納めください。